メロニカ・オルゴール

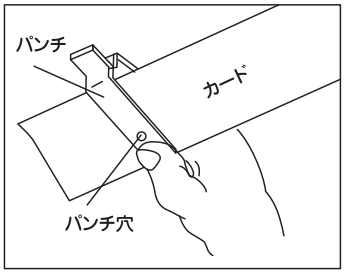
演奏カードの作り方

19世紀後半、ヨーロッパで流行した“自動演奏ピアノ”をご存知ですか･･･?
映画等でご覧になったことがある方も多いと思います。“メロニカ･オルゴール”は、その演奏方式と同様の方法を採用したオルゴールです。穴のあいた「五線譜カード」を奏鳴部分に差込み、ハンドルを回すことでオルゴールが鳴り始めます。附属の穴あきカードを使いカードに正確に穴をあけるだけで、いろいろな曲が演奏できます。さらに、カードを繋ぐと長時間演奏が可能です。以下、この説明書をお読み頂き、貴方のお好きな曲、ご自身で作曲した曲を五線譜カードにパンチングして、是非、オルゴールの美しい音色をお楽しみ下さい。

〈メロニカ･オルゴール演奏カードの作り方〉

●演奏カードの穴のあけ方

附属のパンチを右図のようにセットし、カードの音符位置（線上）に正確に合わせ、穴をあけてください。
＊譜例の「五線譜とオルゴールカードの関係」を参考にしてください。



●演奏カード〈五線譜カード〉の作り方

1.カードを作るときの約束

【音の高さの決め方】

附属カードの横線（赤色の線）は「音の高さ」を決める音高線で、五線譜の役割をします。カードの左右両端に“ドレミファ･･･”が印刷されている通り、メロニカ･オルゴールは「ハ調長の音階」になっています。その為、「ハ調長」以外の曲をパンチングする場合は、必ずハ調長になおす（移調）してからしるしを付けて下さい。

【注意事項】

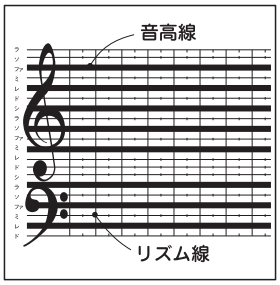
1.カードの取り扱いについて

カードを折ったり、傷つけたりしますと、うまく演奏しない事があります。
又、収納箱から出して、まるまっているカードは、出来るだけ、手でのばしてから使用して下さい。

2.カードの終わりの空白部分には、穴をあけないで下さい。

【リズムの決め方】（表1参照）

〈表1〉



カードの縦線（実線と点線）は音の長さを決めるリズム線です。1目盛りが1拍（点線は半拍）の長さになっていますので、原則として4分音符を「1目盛り」とします。8分音譜は点線を目印にしますので、「8分音符は1/2目盛り」「付点4分音符は1目盛り半」となります。休符も音符同様、その「目盛り」分だけあけておきましょう。

【同じ音を連続して鳴らすときは】（4分音符より短い同音連続は出来ません。）

同じ音を連続で鳴らす場合、1拍以上の間隔（実線で1目盛り以上）が必要です。同音で1拍より短い音符（8分/16分音符）が続く時は、始めの音に纏めてしるしを付けましょう。「1目盛り」に同じ高さの穴をあけると旨く演奏できない場合があります。

【音域の広い曲の場合は】

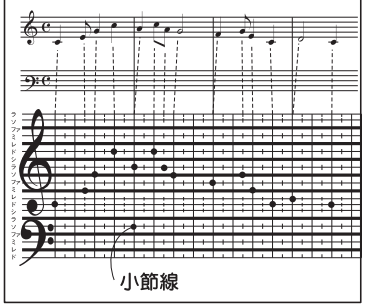
「音域」とは最高音と最低音の範囲（間隔）のことです。メロニカ・オルゴールの音域は人の声より広くなっていますので、殆どの曲目はカードに当てはめられますが、カードにない（音域外）音のある特殊な曲は1オクターブ下げるか、または上げた音で代用するようにしてください。

2.既存曲のカードを作る場合（表2参照）

〈表2〉

五線譜とメロニカ・オルゴールカードの関係

（例）かすみか雲か



五線譜とメロニカ·オルゴールのカードの関係は、右図のようになっています。楽譜を良く見ながら、カードに穴位置のしるしを付け、その位置にパンチを使い正確に穴をあけてください。更に、小節線も同時に書き加えておくと、間違いが少なくなります。

3.自作曲のカードを作る場合

前項（No.2. 既存曲の場合）の通り、カード作成の基本に準じ作曲にチャレンジしてください。

4.長い曲を演奏したい時は

標準カードより長い曲を演奏したい時は、下記のことを守り新しいカードを繋げます。その際、リズム線のないところは使用しないで下さい。

①横線（五線譜）がずれない様に合わせる。

②「追加カード」と「打ち終わったカード」の間隔をあけず（継ぎ目が重ならないよう）繋げる。

③繋げるカードは表裏両面をセロハンテープで両端がめくれないようシッカリ固定する。

5.穴を間違ってあけた時は

もし、間違って穴をあけた時は、裏面よりセロハンテープでふさぎ、穴をあけ直して下さい。セロハンテープは空気の入らぬようしっかり貼りつけ、浮きのないようにして下さい。演奏上、引っかかり止ることがあります。

〈メロニカ・オルゴールの伴奏の付け方〉

― 更に高度な演奏を楽しみたい人のために ―

良い伴奏をつけるには、和音（ハーモニー）の知識が必要です。ここでは「音楽の三要素（メロディー/リズム/ハーモニー）」である「ハーモニー」の効果的作り方をあげておきます。これを参考に、ご自身で工夫し楽しい伴奏を作って下さい。

1.和　音

「和音（ハーモニー）」とは同時に複数の音を組み合わせ演奏することです。音楽に欠かせない三要素の一つで、「明るさ」や「悲しさ」を表現す重要な要素です。

2.メロニカ・オルゴールで、作れる主要な和音（表3参照）

メロニカ・オルゴールで基本的に作れる和音は「主要三和音」です。「図A」は3音の固まりで、「図B」は全ての集合音です。

この和音は共に溶け合い美しいハーモニーを奏でます。

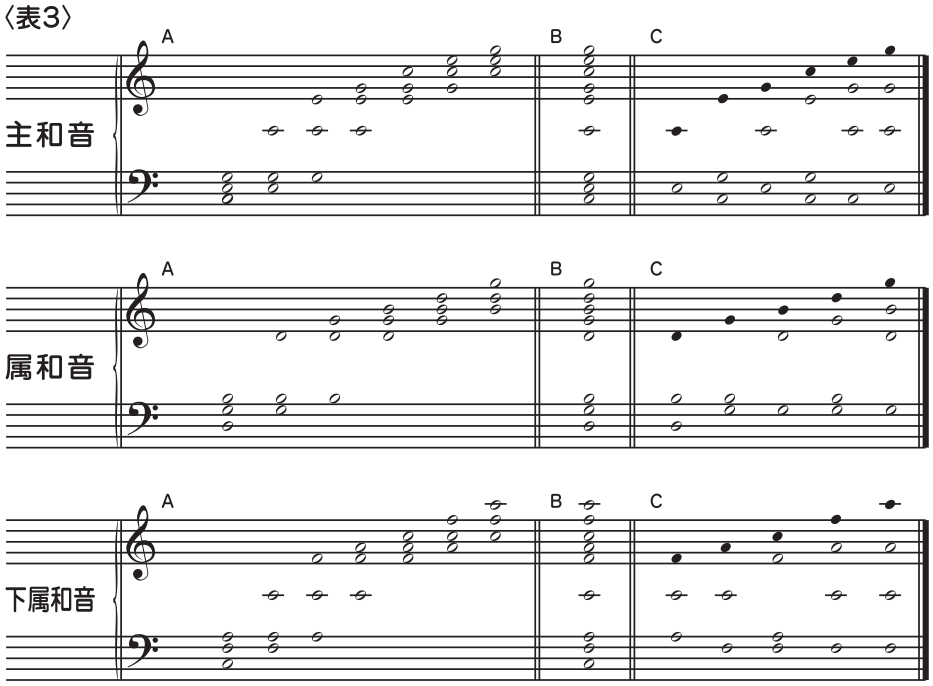
3.良い配列

オルゴールに無理なく、良い音色を響かせるためには「図C」のように、●印をメロディーに仮定すると、伴奏音は○印が良い組み合わせとなります。

あまり音数を多くせず、メロディーが引き立つ和音を研究してみてください。

メロニカ・オルゴールで出せる主要 3 和音とその良い配置

〈表3〉

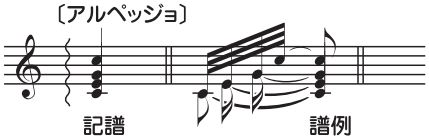


4.伴奏のリズム

伴奏はメロディーを引き立たせる重要な役割を持っています。通常は「分散和音」や「和音をつける」方法があります。また、メロディーより音を長くすることで効果的に聴こえます。

5.特殊な伴奏法

一般的に伴奏は2音以上の音を同時に使用しますが、低音から高音へ少しタイミングを遅らせる奏法（下記譜例参照）があります。“アルペッジョ”といい、ピアノでよく使われ、メロニカ･オルゴールでも効果的です。特に、曲のエンディングに使用すると良いでしょう。（譜例の様に、穴を少しずつずらしてあけていきます。）



6.テンポの変化

音楽ではテンポを“だんだんゆっくり”していくことを「リタルダンド」といい、楽譜には“rit”と書かれています。奏法はハンドルを“だんだんゆっくり”回していきます。曲の表現方法として使用して下さい。特に、エンディングには効果的です。

（五線譜カードは別売もご用意してあります。全国楽器店でお求め下さい。）

⚠ 安全へのこころがけ

ご使用になる前にこの「安全へのこころがけ」をよくお読みになり、内容をご理解のうえ正しく安全にご使用いただけますようお願いいたします。

⚠ 注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると使用者が傷害を負う可能性、財産が損害を受ける危険の恐れのある内容を示しています。

メロニカ･オルゴールの取扱いについて

- ●オルゴール機械は、木箱にしっかりと固定したまま、ご使用ください。
- ●オルゴール機械には、直接手を触れない様ご注意下さい。
- ●スプリングピンがはずれ、思わぬケガをする恐れがあります。
- ●オルゴールは安定した状態でご使用下さい。不安定な状態でハンドルを回すと本体を損なう原因となります。
- ●本商品に衝撃を与えないで下さい。衝撃によって製品が破損したり、落下によりケガの原因となります。
- ●エチュード専用パンチ具は、演奏カード以外の物に使用しないで下さい。パンチ具が破損したり、思わぬケガをすることがあります。
- ●木箱には、絵を描いたり、彫刻をする事が出来ます。

品質には、万全を期しておりますが、万一不都合がございましたらお買い上げのお店又は、下記にご連絡下さい。

ゼンオン 株式会社 全音楽譜出版社 URL:http://www.zen-on.co.jp
〒161-0034 東京都新宿区上落合2-13-3 ☎03-3227-6270 FAX.03-3227-6276